

NEW PHASE

ニューフェイズ

～いつも気持ちを新たに、新しい風にのせて～

2024.2 No. 45

contents

- ★特集：2023年度宿泊研修 …… 1
- 基調講演・普天間朝佳氏 …… 2
- パネルディスカッション …… 3
古謝玄太氏、糸数末希氏、平仲雅奈氏
- 講話：山田和枝氏、上與那原美和子氏、
喜納育江氏 …… 4
- ★宿泊研修 …… 5
- ★40期紹介、OK基金研修会 …… 6
- ★賛助会員企業インタビュー：
宮里敏行氏 …… 7
- ★寄付一覧・賛助会員 …… 8

特集号

2023年度 宿泊研修

沖縄県女性の翼との交流をととして

ふくおか県「翼の会」会長 谷口洋子



ふくおか県「翼の会」は1983年に始まった「福岡県女性海外研修事業」の参加者により1988年結成され、2017年度からは「地域のリーダーを目指す女性応援研修事業」の国内研修参加者が任意加入、2023年度からは広く市民が入会しています。学んだ事や男女共同参画を地域に広めようと努めながら、「翼の会」は2023年度で通算36年目となりました。



ぜんざいを皆さんで



翼事務所にて

県事業が終了し、会員の高齢化もあり多少弱体化している現状を再生し、更に魅力ある会として活動するため、活発に活動を続けられている（一般社団法人）沖縄県女性の翼様と2022年度はZOOMで交流させて頂き、2023年度は13名の仲間と共に2泊3日で現地に赴き研修に参加させていただきました。今回は翼の会が独自で実施した初めての視察研修でしたが、沖縄県女性の翼の温かいおもてなしと素晴らしい研修に心から感謝申し上げます。

1日目は沖縄県男女共同参画センター「ていりる」を訪問



宿泊研修（恩納村主催昼食会）にて

し、大城喜代子理事長のお話も伺いました。また、沖縄県女性の翼事務所で様々な活動を楽しみお話いただき、OK基金や資金調達委員会、次世代プロジェクトチームなどの取り組みはとても参考になりました。2日目の研修は「沖縄県女性の翼」の一泊研修会に合流させていただきました。ひめゆり平和祈念資料館長の基調講演「次世代につなごう沖縄の心」で平和の尊さに感じ入り、パネルディスカッションでは那覇市副市長を始めとする次世代3人の生きざまに「沖縄の未来は明るい」と感動しました。3日目は琉球大学の喜納（きな）学長補佐の講演で、「DE&I」特にEquity（公平）についてもわかりやすく学べました。

研修はもちろんですが、100名を超える参加者と共に楽しく有意義な懇親会、交流会をしていただきました。懇親会はとてパワフルで楽しく、私たちに足りないのはこういう時間だったと感じました。沖縄県女性の翼の男性第1号賛助会員である恩納（おんな）村長を交えての交流会でも、行政の方や議員を始め人材の豊富さに感心した次第です。私たちふくおか県「翼の会」は参加者全員で今回の初めての視察交流を振り返り、「翼の会」の今後の在り方をしっかり考え、行動に移していきたいと思っています。

パネルディスカッション

次世代へつなごう
沖縄のこころ古謝玄太氏
(那覇市副市長)糸数未希氏
(にじのはしファンド)

平仲雅奈氏

次世代を担う世代が、自身の活動を通して、「次世代へつなぐ沖縄のこころ」について語り合いました。

【自身の活動について】

(古謝) 那覇市副市長の公務の他、副市長以外での活動でこれからの沖縄の未来を考える「プロジェクト50」に取り組んでいる。昨年は復帰50年、「沖縄のこころ」をあまり考えたことはなかったが、県外で働いた経験から日本全国・世界でも同じ思いを持っていると思う。

(糸数) 13年ほど前に児童養護施設で「首里奨学母の会」を知った。「豆腐一丁を節約して学費をつくる」民間の奨学金活動で、母の愛情深い活動を引き継ぐ思いで「にじのはしファンド」を立ち上げた。「にじのもり文庫」は、私が泊で育った当時、図書室を提供していたお医者さんがいて「同じ場所をつくりたい」と7年前に開設した。2つの活動とも、先輩から引き継いだ活動だ。私も一人の次世代の者だと感じている。

(平仲) 最初に就職した会社で、修学旅行生と地元の大學生が議論する平和学習プログラムを提供していた。個人的に宜野湾の平和大使、対馬丸と奄美の子供たちの交流事業も行っていた。参加型、ゲーム感覚のインプット、インプット後のアウトプットをセットし、正解がない問いを一緒に考える。民謡歌手の幼なじみと「沖縄戦の唄を継承する人がいない」「怖くて歌えない」と話したことがきっかけで、二人で沖縄戦についての継承をする活動もしている。

【今後の展望について】

(糸数) 制度の対象になっていない子どもたちの支援をしたい。聞かれていない声、ひとり親、生活困窮・孤立している人たちの声を聴き、民間でできることをやる、ことを心がけている。

(平仲) 祖父が16歳で沖縄戦体験した話をしていて。地元・具志頭村では6月に地域の方々が学校で話してく

れた。家族でも地域でも話を聞くことが当たり前のようであった。沖縄戦が6月の「シーズンごと」ではなく、普段の会話で「これは沖縄戦のときにさー」と広げること、知識がある人だけの話ではない雰囲気をつくっていききたい。

(古謝) どうなるかより、どうするか、を心がけている。「自分たちがちゃんとがんばるんだよ」と若い世代に伝えたいと、現役大學生・高校生にも入ってもらっている。さまざまな人が入っていく中で「プロジェクト50」をしていきたい。

Q 他県でも活躍され、他県と沖縄の平和活動の違いを感じたことはあるか。あるとしたらどういうことか。

(古謝) 岡山と長崎で働き、長崎は国際課長で平和行政も担当した。各地で平和学習は行いが、相互の学習が薄いのではと感じた。沖縄も6月の慰霊の日には報道するけど、8月の原爆の日はどうなのかと感じる。

Q 大學生から偏った意見が出たりしないか。

(平仲) 基地問題で大學生が「友達が基地で働いているから、基地で働く人を否定して見られたくない」と言っていた。発言がレッテル貼りされず、安心・安全を心掛けたプログラムを工夫した。小學生の子どもたちには、まず私を信頼してもらえるようにしている。「一人で戦争はできないしねー」「沖縄戦もこういう雰囲気だったのかもね」と話をしている。

Q NPO法人の経営は大変だと思う。高い理念のもと、事業継続で工夫していることは何か。

(糸数) わかりやすさ、引き落としという仕組みをつくって、寄付しやすい工夫をしている。ランチ1食のささやかな金額でも、子どもたちにとっては大きな寄付。

(普天間館長からコメント) 若い世代の取り組みを知り、沖縄の未来は明るい。今は戦争がない状態だけではなく、人間が人間らしく生きられることが平和だという考えも出てきている。沖縄の人が幸せになるための取り組みを力を合せてできたらいいと思う。



長濱善巳・恩納村長



玉城デニー知事のビデオメッセージ

パネルディスカッション コーディネーター
破名城初美 (39期)

基調講演 次世代へつなごう 沖縄のこころ

沖縄を戦場にしてはならない

普天間 朝佳氏(ひめゆり平和祈念資料館 館長)



沖縄戦では10代の子どもも動員されました。その一つが沖縄師範学校女子部・県立第一高等女学校の女學生で構成された「ひめゆり学徒隊」です。当時の写真は今の子どもたちと同じ笑顔で、同じようにバスケットなどの部活動がありました。

一方で「天皇に全てを尽くさなければならない」「戦争に勝つために命もかけないといけない」という軍国教育も受けていました。1942～43年はうるまから勝連城址までの70kmを一日で歩く「17里行軍」訓練や、日本軍が沖縄に配備され、食料増産活動で女學生達も畑を開墾したり、陣地づくりにも駆り出され始めます。授業は2日に1回、3日に1回になっていきました。生き残った学徒隊・宮良ルリさんの証言映像では、沖縄戦の1年前の集合写真とともに「この1年後に沖縄戦を経験するとは誰も思っていなかった」と語られています。

1945年3月下旬に米軍が沖縄へ侵攻。負傷した兵士の治療のため、女學生たちが野戦病院で働くことになりました。首里の最終決戦で終結させるのが常道でしたが、軍とともに南部へ移動、しかし3週間で突然、学徒隊に解散命令。生徒たちは突然戦場に放り出されました。動員された240人のうち、136人が亡くなりました。

戦後、壕で学友の遺品発掘を始め、5年の歳月をかけ1989年にひめゆり平和祈念資料館を開館しました。34年間で約2400万人が来館。同窓生が運営する民間施設で、公的な資金は入っていません。

現在の課題は、沖縄戦体験者から非体験者への継承です。いまの資料館の運営は、元学徒隊が育てた戦後世代の私(館長)たちが行っています。臨場感、迫力がある体験者の語りを、私たちが同じようにはできません。

また、戦争から75年がたち、いまの若い世代にとっては沖縄戦をストレートに理解することが難しい。同じ展示のままでは伝わらないのではないか。次世代に語り継いでいくために、①証言映像の上映、②展示リニューアル、③後継者の育成など、「戦争からさらに遠くなった世代へどう伝えるか」「体験者が説明しなくてもわかる展示」を意識しています。戦争前の笑っている集合写真を展示して、「戦争体験した学徒隊も私たちと変わらないんだ」と感じてもらったり、体験者の証言映像を聞いてもらうなどの工夫をしています。

後継者たちの新たな取り組みは「主体的な学びの開発」です。戦争と平和の問題を“自分ごと”として考えてもらうために、能動的な学びが必要ではないか。映像コンテスト、フィールドワーク、ワークショップ、高校生に語りの担い手になってもらう「高校生展示ガイド」を行っています。

9月にはハワイで初めて「ひめゆりとハワイ」展を開催しました。「アメリカでは軍人の視点(特に戦後も戦勝国の立場)からしか戦争を考えたことがなかったが、住民・女性の視点から戦争を考えることができた」という感想がありました。同じ時期にスペインでゲルニカの絵を観て、平和交流でネットワークを創っていこうと話しました。

「沖縄のこころ」を次世代へ。沖縄戦、ひめゆり学徒の体験を聞いて、私たちひとりひとりが「語り部」にならないといけないと思う。沖縄を戦場にしてはならない、が沖縄戦を体験した人たちの想いだと思う。次の世代に伝えて広げていくために、ともに力をつくしていきましょう。

美らヨガで、さわやかに朝のスタート



砂浜で朝ヨガ



充実した研修にみんな笑顔



写真で見る研修会・懇親会



会場からは活発な質問が続く



平仲雅奈さんを囲んで



沖縄平和賞パネル展示



かぎやで風で懇親会スタート



今年も笑って楽しく余興！



カチャーシーで締める

講話

DEIGOプラン、
民間との協働山田和枝氏
(沖縄県女性力・平和推進課 班長)

沖縄の男女共同参画社会を推進する「DEIGOプラン」は、家庭・職場・地域・社会全体での男女平等の目標を掲げています。世界のジェンダーギャップ指数では、残念ながら日本の順位の低さが目立ちます。2023年ランキングでは日本は125位(145カ国中)で昨年より順位が下がっています。分野ごとで政治138位、経済123位で低いのが要因です。沖縄県DEIGOプラン実現のため、行政だけではなく民間との協働が大切であるとの講話でした。

講話

ているるの相談事業の課題等



上與那原 美和子氏(公益財団法人おきなわ女性財団 常務理事)

初めにおきなわ女性財団の事業説明、次に令和5年度受託事業より各事業の紹介、最後に、ているる相談事業の実績及び事例紹介と続いた。沖縄県が取り組んでいるDEIGOプランに基づいて、実際の事業の一部を実施しているのがおきなわ女性財団である。

7事業名で構成され27事業を展開中である。相談事業は4つあり、各相談事業の実績や件数、事例が紹介された。国際女性相談で多いのは、沖縄県は米軍基地が多いため米軍属と沖縄県在住者との交際トラブルが他県と比べ多く、交際トラブルに特化した窓口を設けている。女性相談は、女

性からの相談を女性が受けている。事例として、夫の実家が近いので夫は直ぐに実家に帰り生活費も僅かしか渡してくれない。子供に関するお金も使ってしまう。これは経済的DV、精神的DVである。にじいろ相談は、セクシャリティーに関する相談で本人でなくて他の人からの相談も受け付けている。

男性相談もある、男性からの相談を男性が受けている。国際家事福祉相談所の案件は、1人の方の案件が長引く内容で、離婚・子供の養育費関係が多い。令和5年度事業計画パンフレットや相談事業実績を手にも全員が真剣に聞き入っていた。

講話

ダイバーシティとジェンダー/
私たちのフェミニズムはどこへ向かっているのか

喜納育江氏 琉球大学・国際地域創造学部教授 同副理事・副学長(評価・IR担当)

女性の研究者の割合が非常に少ない。琉大は教授全体でやっと女性が8%から10%になってきたところです。予算が削られる中で退職者の後任を女性にするのは自然増では難しい。学長のトップダウンのリーダーシップが必要です。

●ベル・フックス著「フェミニズムはみんなのもの～情熱の政治学」を紹介し「フェミニズムはどこへ向かっているのか」について語った。

●最近で大学で学生と接していると、全体の雰囲気は戦闘モードではない。LGBTQの時代、なぜ女性が優遇されるのか、男性への「逆差別」では、とも考える。生まれたときから男女平等の感覚があるが、その平等を勝ち取るために先

輩たちが歩んだいばらの道を知らないのでしょうか。私たちがここまで築いてきたものを後世の人にどう残すべきか、その問題意識を皆さんと共有できたらと思う。

●私たちにも「若者」へのアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)はないでしょうか。若者に対して常に「教える側(上位)」になっていないだろうか。ジェンダーに関しても若者に対する決めつけをせずに常に対話すること。

●学生が何をしたいのかは本人たちに聞くしかありません。これからのフェミニズムは、SDGs流に誰ひとり取り残さない、次世代を残す方向をむくこと、ウェルビーイングのけん引役になる必要があるのではないのでしょうか。

賛助会員企業 インタビュー



沖縄商工会議所会頭
すこやかホールディングス
代表取締役社長
宮里敏行氏

【すこやかグループ】

■ グループ理念
「創造と奉仕」

■ グループパーパス
「誰もが幸せに暮らす未来に、愛を。」

■ グループスローガン
「ボーダレス ラヴィング」

■ グループ会社
株式会社すこやかホールディングス
株式会社薬正堂
株式会社ジーエヌエー

■ 私たちの事業
保険薬局事業
介護福祉事業
保育事業
サロン事業
ホテル事業
IT 事業



地域のリーディングカンパニー すこやかホールディングス

まず訪問で感動したのが、応接室の見晴らしの良さと社員の素敵な笑顔でした。さらに男性社員の湯茶接待などで出迎えていただきました。

すでに男女共同参画社会が進み、女性が活躍する風土が築かれています。傘下である株式会社薬正堂では、女性社員の比率が8割に達し、2名の役員を含め役職者は6割を占めています。

働きやすい環境への注力も感じられ、時間有給、育児、介護休業規程等が雇用形態に適用されています。中でも育児短時間勤務制度は、0歳から小学校3年生まで取得可能とされています。

また、産前産後休暇、看護休暇、母性健康管理、生理休暇などの制度が充実しており、男性の育休も8名が取得し、訪問時も2名の方が取得中でした。

ジェンダーフリーへの取り組みを積極的に実施し、40周年を迎えた今年は、社長の先見の明と、お客様や地域への心配りが成長に貢献しています。

これからも地域のリーディングカンパニーとして、株式会社すこやかホールディングスに期待が高まります。



すこやかホールディングスははじめ、沖縄商工会議所会頭としても大活躍なさっている宮里社長。女性の健康に関する悩みを最新技術で解決する「フェムテック」をはじめ、視点は人材育成やDX化等とどんどん広がりを見せています。経営理念は「創造と奉仕」大きな視座と社員を見守る温かいお人柄に感銘を受けました。

〈(一社)沖縄県女性の翼 会長 崎原末子〉

「女性の翼」 第40期 紹介

よろしく
お願いします



団長 宮里真由美
(沖縄市)



副団長 桃原弘子
(浦添市)



事務局長 新垣亜矢子
(豊見城市)



長嶺ふし子
(那覇市)



新垣ミイ子
(うるま市)



瀬名波牧
(北中城村)



上谷綾子
(石垣市)



安里洋子
(与那原町)



平良恵子
(沖縄市)



横田亜矢加
(うるま市)



植村こま子
(那覇市)



喜瀬涼子
(宜野湾市)



神村さゆり
(宜野湾市)

女性の翼・OK 基金研修会

困難な課題を抱えたひとり親、 女性の自立について



講師：本村真氏（琉球大学法文学部人間科学社会学科教授
兼任/地域共創研究科公共社会プログラム教授）

4つのテーマに沿った2部構成で、グループワーク（4人1グループ）も交えながらのセミナーでした。

(1) 自立に必要なもの

- 安心安全な環境
- 十分な栄養補給
- やる気、モチベーションのアップ

(2) 支援を難しくする当事者の「困り感」の見えづらさ

支援者として次のような知識を持って、各種団体の連携が必要。

- 自己肯定行動の低下に関する知識
- トラウマ記憶やその反応に対する知識
- 発達特性に関する知識

● 各種疾患(特に精神疾患)に関する知識

(3) 各種団体の連携によるアクションの重要性

沖縄県は県民所得の低さによる貧困が多く、保護者の自己肯定行動の低下が要因の児童の自己肯定行動の低下が他県に比べて多いと考えられる。課題に取り組む各種団体の連携によるアクションが必要である。

(4) 国の法律の改変に合わせた地域アクションの重要性

新たな女性支援の担い手(民間団体)と、従来からの担い手(自治体、婦人相談所、婦人相談員、婦人保護施設)が、それぞれの強みを生かした「民間協働」が重要である。

国際交流事業2023 サヘル・ローズ講演会、無事に開催！

11月23日(木)に大盛況で開催終了しました。当日はハワイ・マウイ島へ火災被害支援を行う「ちむぐくるプロジェクト」募金も行いました。
「10歳の娘が泣いちゃったーというくらい素晴らしい講演」「ご自分の体験を通して様々な支援のあり方を伝える一言ひとことが心に刺さりました」など多くの感想をいただきました。



新聞から学ぶ 伝え方講座を開催！

7月29日(土)10時から関戸塩氏(琉球新報社地域読者局プロモーショングループ、グループ長)をお迎えして

テーマ みんなをつなぐ、明日へ羽ばたく
新聞から学ぶ伝え方講座を開催しました。



代表取締役社長 仲座義人

浦添本社：浦添市字港川512番地55(7階) TEL098-879-7704(代)

名護本店：名護市港2-6-5 TEL0980-53-2227(代)

【寄付一覧】2023年4月～12月

一般

伊藤かおり、仲里マサ子、中村よね、友利敏子、宮里時子、島津典子、佐久本安奈、喜友名由枝、伊仲美恵子、新里蓉子、棚原八重子、新垣幸子、崎原末子、當山君子、新垣光枝、垣花悦子

OK 基金関連（募金箱含む）

花城千枝子、棚原利栄子、當山芳子、友利敏子、がじゅまる観光、県健康長寿課、沖縄市、浦添市、県会計課、募金箱・No.27,31、豊見城女性の翼、なかもとたかこ、メイクマン石垣、豊見城市商工会、恩納ナビーの里、石底和子、許田英子、島明美、ファームインナビーの里、大城天ぶら店、OK基金研修会場、南城市、金秀グループ、豊見城市、うるま婦人寮職員一同、仲村かおり、ふくおか県「女性の翼」、當山君子、座間味正子、仲村千恵子、加藤登紀子コンサート、匿名、沖縄県機関からの募金、イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン、(有)八陽、BaseChaplain、(株)ICT Winng

あしたの翼基金

匿名2名

賛助会員

◆ 個人

米須美佐恵、井上久美子、仲本美和、島袋綾乃、与儀サエ子、島袋秀子、平安山初子、大川勢津子、伊良皆善子、松崎正也、渡久地よし子、名嘉靖子、伊芸まもる、大城節子、崎間京子、成田陽子、伊敷博子、金城智子、玉城妙子、大城望、島袋若菜、大濱文子、松田廣美、宮城良子、伊禮和枝、宮平恵美子、新垣千鶴子、大濱慶子、外間悦子、平良淳子、田制トモ子、屋比久里美、友利律子、池原トモ子、渡慶次春子

◆ 団体

リザンシーパークホテル谷茶ベイ、ブティック・ディセンバー、太田建設(株)、(株)丸松建設、屋富祖工業、(株)さし草や、コザ信用金庫、(株)屋部土建、街クリーン(株)、キッチンmori、医療法人慈愛会しゅくみね内科、(株)ベースキャンプ、(株)松藤、ジョイネス沖縄、琉球銀行

賛助会員 募集中！

あなたも、女性の翼を応援する一員になりませんか

・賛助会員は、女性リーダー育成の応援団！

・海外セミナー派遣や各種活動を助成する応援団！



ひとりひとりで増員のご協力を！
個人も団体も可能です。
(年会費 個人3千円/団体1万円)

※賛助会員の方へも講座や研修会の参加案内をいたします

女性の自立を支援するOK基金

企業・個人の皆さまのご寄付を宜しくお願いいたします。

・沖縄銀行県庁出張所 店番012 普通預金 1303558
一般社団法人 沖縄県女性の翼OK基金

・琉球銀行県庁出張所 店番251 普通預金 194070
一般社団法人 沖縄県女性の翼

・みらいファンド沖縄(※税控除あり)
沖縄銀行鳥堀支店 店番141 普通預金 1416881
公益財団法人みらいファンド沖縄 代表理事 小阪亘

2024年度会費振込先

・沖縄銀行 県庁出張所(普通預金)1302771	一般社団法人 沖縄県女性の翼 会長崎原末子
・琉球銀行 県庁出張所(普通預金)193166	一般社団法人 沖縄県女性の翼 会長崎原末子
・ゆうちょ銀行 記号 17090 番号 20499231	一般社団法人 沖縄県女性の翼 会長崎原末子
・コザ信用金庫 那覇支店(普通預金)2049853	一般社団法人 沖縄県女性の翼 会長崎原末子

編集後記

4年ぶりの海外セミナー「ベトナム研修」を開催する事が出来ました。また、経営戦略プロジェクトチームと次世代プロジェクトチームを発足しました。新たな一歩を踏み出した、女性の翼のこれからの活動が楽しみです😊。



／ 賛助会員続々入会 ／

一般社団法人 沖縄県女性の翼

沖縄県女性の翼

Q 検索

HP

